

KISC

公益財団法人 かごしま産業支援センター
Kagoshima Industry Support Center

創業や研究開発に
取り組むあなたを応援します



秋号
2012

農業生産法人 有限会社 十津川農場

代表取締役 ^{たまき} 玉置 ^{ひろよし} 博祥

<企業概要>

所在地 肝属郡南大隅町根占横別府 487-1
 設立 平成11年10月
 従業員数 23名（うちパート7名）
 TEL：0994-24-5531
 FAX：0994-24-5532
 URL：http://www.totsukawa.co.jp
 E-mail：totsukawa@po3.synapse.ne.jp

びわの葉を主原料に
仔牛用健康増進剤

今号の表紙



農場風景

今号の表紙は、「びわの葉を主原料にした仔牛用健康増進剤の開発と販路開拓」で平成24年2月に国の地域産業資源活用事業計画に認定された「農業生産法人 有限会社 十津川農場」代表取締役の玉置 博祥さんです。

同社は、鹿児島県が全国有数のびわの産地であり、古来より効能が伝えられているびわの葉を商品化し、地域振興に貢献できないかとの発想から、当センターの支援のもと、県の経営革新計画の承認を得て、「ねじめびわ茶」を開発されました。

鹿児島県産のびわの葉だけを原料とし、特許を取得した製法で製造した「ねじめびわ茶」は、飲み口まろやかで美味しい健康茶として、ティーバッグやペットボトルで販売されています。



「ねじめびわ茶」商品

さらに、「安心・安全な食」が期待されている近年、鹿児島大学との共同研究で、当センターの研究開発助成事業を活用し、高血圧抑制や抗酸化作用などびわの葉の様々な機能が確認されました。

今回の事業計画では、「ねじめびわ茶」を主原料に、地域の食品工場が発生するさつまいもの皮や規格外の大根・人参・かぼちゃ等の天然素材原料のみを利用した、仔牛用健康増進剤の開発と販路開拓に取り組んでいます。

経済産業省の工業統計によると、飼料添加剤を含む配合飼料の市場規模は拡大傾向にあることから、商品化を図ることで市場性への期待が高まっています。

今後もびわ茶のバイオニア企業と

CONTENTS

- 2 今号の表紙
- 3 私の思い！
- 4 応援します！中小企業の経営革新！
- 6 わが社の輝く女性！《渡 悦美さん》
- 7 がんばる進出企業 《株マルハチ・テクノロジー
- 8 ベンチャープラザコーナー
- 10 海外取引情報コーナー
- 12 IT情報コーナー
- 14 Information 「第15回機械要素技術展（関西）」への出展ほか
- 15 「第1回鹿児島大学ラボツアーを開催」ほか
- 16 「ものづくり維新館」オープンほか

「地域産業資源活用事業計画」の認定を受けると

新事業活動促進支援補助金（地域資源活用売れる商品づくり支援事業）、日本政策金融公庫による低利融資、中小企業信用保険法の特例等の支援措置を受けることができます。

して、全国的な認知度向上や地元の生産者との連携を深め、地域農業の振興に寄与することが期待されます。

ジェットロ鹿児島

所長

いとなが

糸長

まさとも

真知

プロフィール

東京都出身。

1994年 上智大学卒。

日本貿易振興会（ジェトロ）入会。国際交流部、貿易開発部等で輸出促進、対日ビジネス促進の事業に従事。

国際機関太平洋諸島センター市場調査官、シドニー・センターディレクターを歴任。

2009年4月より現職。



私の思い

もつと鹿児島ブランドの発信を！

香港、台湾といった国・地域では、鹿児島県の知名度は抜群に高い。他の周辺国や欧米ではどうか。鹿児島ブランドは、はたして海外でどれくらい浸透しているのだろうか。地域が直接海外へ産品を売り込む時代、地域ブランドの発信力が問われている。

ジェトロがここ2年間で、米国から鹿児島に招いたお茶バイヤーのほとんどは、お茶といえば静岡・宇治というイメージしか持っておらず、鹿児島の知識はゼロだった。しかし鹿児島の豊かな風土と、そこで栽培されたお茶の品質を知ったバイヤーは、鹿児島茶を大変気に入った。その茶葉のひとつ鹿児島産の「ゆたかみどり」は今、米国企業のウェブサイトで紹介されていて、鹿児島が良いお茶処であることが全米に発信されている。

今年11月にはお茶バイヤー11名が来鹿する。このうちニューヨークからの参加者は、お茶にまつわる書籍を執筆するフードライターでもある。あわよくば米国の書籍を通じて、鹿児島茶ブランドを全米に発信してもらう目論見。商品力アピール一本

槍の売り込み手法では限度があるから、やはり地域ブランドの後ろ盾があった方がよい。

今年10月に、ミャンマーから農業機械の買付け一団が九州にやってきた。この時にまずバイヤーから質問されたのが、「カゴシマは日本のどこですか？」であった。鹿児島には蒸熱処理装置、食品乾燥機、各種ハーベスタなど、一次産業から派生した農業機械が豊富に揃っているとバイヤーに説明すると、すぐにでも現場を見に行きたいと関心を示してくれた。

鹿児島には良いモノが豊富にあるのだけれど、単純に海外で知られていないケースが多いように感じる。鹿児島のことを海外でより広く知ってもらえれば、我々のビジネスチャンスはもつと増えるはずだ。それには、個々の草の根的な広報活動の積み重ねが必要になる。

鹿児島ブランドを「制度」の面から世界に広める具体策もある。GI（地理的表示）の活用がそれだ。現在、日本ではGI制度の導入が検討されていて、今年に入って農林水産省による有識者の研究会がすでに5回行われている。この制度は原産地由来の製法や品質・条件を満たした食品

等を、正当に評価して国際的に保護するものだ。産地名がそのままブランドになっている欧州のワイン、ハム、チーズなどがこの表示にあたる。

日本はまだGI制度を導入していないが、原産地由来のブランドが国際的に保護されれば、鹿児島のよう土地に根差した産品を多く有する地域は、輸出において有利性を確保できる。芋焼酎など酒類は、先行して地理的表示が保護されている。

既存の地域団体商標や自治体が取得した商標と、GIの関係性など整理すべき点はあるが、鹿児島としては、制度導入を見越して鹿児島ブランドをどう世界に浸透させていくか、戦略を立てないといけない。GIの実現には、業界を越えた横断的な連携が求められる場合もあり、議論を始めるのに早すぎることはない。

将来、オール「九州」ブランドの必要性にも迫られるだろうが、いずれにせよ、地域ブランドの後ろ盾は、海外ビジネスのメリットになる。逆に、我々の日頃の地道な売り込み活動や国際的「制度」の活用が、地域ブランドの発信そのものであり、ブランドの力量強化にもつながる。この点を踏まえ、新たな海外市場の獲得に向けて、皆さんと取り組んでいきたい。

応援します！中小企業の経営革新！

～経営者のための経営革新支援制度活用術～

- 当センター及び県では、事業者が新たな事業活動を通じて経営の向上を図る取り組みを支援しています。
- このシリーズでは、「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律（中小企業新事業活動促進法）」に基づく経営革新計画を作成、県の承認を受けて支援策を活用し、新事業に取り組んでいる事例を紹介します。

プリントネット株式会社

【経営革新計画のテーマ】

『大都市圏における印刷通販の展開』



＜ 代表取締役 小田原 洋一 氏 ＞

＜ 企業概要 ＞

所在地：始良市西餅田 1191-3

設立：昭和62年7月

資本金：20,000千円

従業員数：159名（平成24年4月現在）

業種：印刷業

TEL：050-3539-5210

HP：http://odahara.jp/

計画承認：平成20年1月18日（平成23年2月変更承認）

新工場の設置と最新設備の導入
で大都市圏の顧客基盤を拡大

Q・経営革新にチャレンジしようとしたきっかけは

当社が経営革新計画を作成し、県の承認を受けたのは平成20年です。当時、既にインターネットを通じた印刷通販事業が、短納期・低価格を強みに軌道に乗り、売上も右肩上がりの経営状況にありました。

しかしその一方で、鹿児島にしか印刷工場をもたないために、顧客層の中心を占める関東のお客様への納品が、どんなに急いでも翌日となってしまうという課題を抱え、更なる顧客満足度の向上のためには既存の生産体制を見直す必要性がありました。この課題を解決するにあたり、県外拠点の設置や資金調達に関する情報収集を行う中で、県の経営革新支援制度を知るところとなり、かごしま産業支援センターの協力のもと経営革新にチャレンジすることとなりました。

Q・経営革新の内容とはどのようなものですか

納期面・品質面での競争力を更に



平成20年に開設した東京西工場（山梨県上野原市）

高め、大都市圏における受注基盤を拡大するため、山梨県に新工場を設置するとともに、最新印刷機を導入しました。

また、これらの設備投資と併せて、顧客管理や工場の生産管理体制といったソフト面の改善を図りました。

プロの指導で計画をブラッシュアップ、サービス品質の更なる向上へ



カスタマーセンター（鹿児島市）で顧客サポート



自社WEBシステムで24時間体制の入稿受付

Q. 経営革新の支援策利用状況を聞かせてください

県から経営革新計画の承認を受けたことにより、新工場建設や印刷機導入に係る設備投資の際、政府系金融機関の低利融資を活用することができました。

また、経営革新計画の作成の際、かごしま産業支援センターの専門家派遣事業を通じて、生産管理や人事管理の専門家から具体的なアドバイスを受けることもできたため、実際の新事業着手にあたっては、今回の

経営革新を通じて培った考え方が大いに役立ちました。

サービス網の拡大で全国へ安定供給

Q. 今後の事業展開について教えてください

ありがたいことに当社の印刷通販事業は引き続き好評を得ており、現行の工場体制では注文に対応しきれない程の状況になっています。その

ため、現在は他社工場への印刷工程の外部委託事業を拡大するなどして、全国各地のお客様に高品質・短納期・低価格の印刷サービスを提供して供給できる体制を整備しています。

印刷業界をとりまく環境は相変わらず厳しいものがありますが、当社は、経営革新への取り組みにより、売上高の大幅な増加を達成することができました。これからも、現状に甘んじることなく、お客様の求めているニーズを徹底的に追求することで、今後も経営の向上が図れるものと確信しています。

■ 経営革新支援制度のご案内 ■

新商品の開発・生産、新サービスの提供など新たな事業活動を通じて、経営の向上を図ること（経営革新）に積極的に取り組む中小企業を支援しています。

【経営革新計画の承認基準】

- ①新商品の開発又は生産、新役務の開発又は提供など新たな取り組みであること。
- ②付加価値額と経常利益の数値目標が次のとおりであること。

経営指標	計画年数	3年	4年	5年
付加価値額（営業利益＋人件費＋減価償却費）		9%以上	12%以上	15%以上
経常利益（営業利益－営業外費用）		3%以上	4%以上	5%以上

【支援策の内容】

- ①政府系金融機関による低利融資
- ②信用保証の特例
- ③県補助金 など

【問い合わせ先】 県庁経営金融課 経営支援係

TEL：099-286-2944（直通）、FAX：099-286-5576、E-mail：shien@pref.kagoshima.lg.jp

わが社の輝く女性！

今号の、ものづくり企業で頑張る「わが社の輝く女性！」は、黒糖焼酎の製造を主に、焼酎粕を有効利用した“もろみ酢”や化粧品を作っている(株)奄美大島開運酒造 商品開発室室長の渡 悦美さんです。

株式会社奄美大島開運酒造

所在地 大島郡宇検村湯湾大湊浜 2924 番 2
 設立 平成 8 年 4 月
 従業員数 51 名
 TEL 0997-56-5016
 FAX 0997-67-2758

渡 悦美 室長 プロフィール

1965 年 徳之島生まれ
 星座 牡羊座
 九州女子大学 栄養学部卒業後
 県立大島病院管理栄養士として
 勤務
 結婚退職後 1998 年入社



◆現在の担当部署は

商品開発室に所属しており、新商品の開発に携わっています。

◆なぜ、黒糖焼酎造りに関わるようになったのですか

15 年前に義父が焼酎会社を譲り受けて経営することになった際、身内で製造できる人を・・・ということで白羽の矢があたり製造に関わるようになりました。学生時代の卒業論も「黒糖について」でしたので、奄美の黒糖を発信することを学生時代から考えていた私にとっては、黒糖という素材に関わりが持てるチャンスでした。

◆黒糖焼酎「れんと」誕生のこだわりについて

焼酎製造を始めた頃は、焼酎はまだ男性の飲み物といったイメージが強い時代でした。あえて女性にこだわり、女性が飲みやすいすっきりとした味、華やかな香り、そして女性が手に取りやすいボトルの大きさ、奄美をイメージするブルーのボトルなど女性にターゲットを絞り込みました。また、名前は「音響熟成」で熟成することからゆつくりと、という意味の音楽用語である「Lento」から「れんと」とつけました。

◆仕事上での体験談など

焼酎造り初心者で始めた焼酎造りは、多くの方々に支えられながらの

スタートで、県工業技術センターの職員の方々や他の酒造会社の方々にも助けて頂きながら製造をしてきました。焼酎造りを通して多くの方との出会いがあり、その出会いの中で多くの事を学ばせて頂きました。15 年の間、製造を続けてこれたのもご指導頂いた多くの方々のお陰と感謝しています。

◆研究開発室長として心がけていることは

お客様の「おいしい」笑顔に出会える商品を開発することです。人は美味しいものを口にしたときに自然に笑顔が出てきます。お客様を笑顔にするそんな商品を開発したいと思っています。

◆「ものづくり」について

お客様のニーズにあった「もの」を造る技術を磨く事だと思います。でも、一番大切なことは自分自身が「ものづくり」を楽しむこと、遊び心を



商品開発室

持ち続けることだと思います。

◆後輩社員へ期待することは

一人では良い仕事はできません。周囲の方々に支えられて自分がいるのだということ。そして自分の仕事に誇りを持ちながら、謙虚な姿勢で仕事に取り組んでもらいたいと思います。

◆今後の抱負は

地域と共に発展していくことが弊社の理念の一つでもあり、今後も奄美の黒糖や果実等の農作物を原料とした、「奄美」を生かした商品を開発し続け、「奄美」を「黒糖」を南国奄美から発信していきたいと思っています。

◆趣味や尊敬する人物は

尊敬する人物は両親です。感謝と思いやり、そして仕事の楽しさや厳しさを教えてくれた義理の両親、そして厳しく育て暖かく見守ってくれる両親です。

◆上司の方から



渡 会長

とにかく研究熱心で努力家です。黒糖酒に女性の視点を、という私の想いを「れんと」で見事結実させてくれました。ただただ感謝です。



マルハチ・テクノロジー外観

■会社概要

株式会社マルハチ・テクノロジー

株式会社マルハチ・テクノロジーは、天然調味料やバイオ・機能性食品素材の製造会社として平成21年に設立され、翌年、枕崎市白沢北町の臨空工業団地内に工場を建設し、平成24年1月より操業開始しております。従業員は現在19名で、今後、さらに事業の拡大を計画しています。

がんばる進出企業



商品パッケージ

親会社のマルハチ村松は、明治元年（1868年）に初代創業者 村松善八が静岡県焼津市に鰹節製造を家業としたのが始まりでした。村松善八は日本で初めて鰹節の品質規格を統一した「焼津鰹節標準型」を完成させ、鰹節産業の発展に寄与しました。その後、二代目は「鰹エキス」「鰹の素」を、四代目は即席だしの素「パウミー」を開発しました。この鰹の素とパウミーは、現在でも全国の学校や病院などの集団給食の場でご愛用頂いております。そして現在、五代目である村松憲行は長年の伝統は守りつつ、バイオ・機能性食品素材、介護食など時代のニーズに合わせた事業展開をしています。

■鹿児島進出の理由

マルハチ村松には他社には真似できない技術、ノウハウ、設備などが数多くあります。一方、静岡県は30年以上も前から東海地震の発生が予測され、工場の全てが焼津市内にある当社にとって、巨大地震の発生は大きなリスクであり、生産活動への影響は計り知れません。このような環境の中、災害時でもお客様に出来るだけご迷惑を掛けないためのセカンドサイト設立が急務となっていました。候補地を検討する中で、枕崎市は焼津市と同様に鰹をはじめとした水産原料が豊富で、日本一の鰹節生産地であり、当社の強みを活かせる新たな生産拠点として最良の場所でした。また何より鹿児島県、枕崎市ともに企業誘致に熱心で、魅力ある協力支援体制をベースに、親身になって相談に乗って頂いた結果、枕崎市への進出を決定しました。

その直後には会社から車で30分の所に静岡空港が開港し、鹿児島線が就航したことにより益々近い存在となりました。また、工場建設中に東日本大震災が起き、多くの企業が被災された中でセカンドサイトの重要性を再認識させられました。

■今後の展望

現在、マルハチ・テクノロジーで生産できる製品数はわずかですが、今後セカンドサイトとしての役割をより高めるために、マルハチ村松からの技術の移転と新たな生産設備の導入を行っていく予定です。そして地元採用社員の知識と技術力の向上をはかるとともに、マルハチ村松の子会社という意識ではなく、親会社に頼らない自律した一企業として、地元鹿児島県の経済や雇用に貢献できるよう努力してまいります。

代表者：代表取締役社長 村松 憲 行

所在地：鹿児島県枕崎市白沢北町 800 番地

設立：平成 21 年 10 月 20 日

資本金：1,000 万円

従業員数：19 名

事業内容：天然調味料及び機能性素材等の製造販売

TEL：0993-58-1230 FAX：0993-58-1231

マルハチ村松ホームページ <http://www.08m.jp/>



ベンチャープラザ コーナー

第54回ベンチャープラザ鹿児島

「二水会」

第54回のベンチャープラザ鹿児島「二水会」を、平成24年8月8日(水)に鹿児島市において開催し、県内の2社と県外の1社にビジネスプランを発表していただきました。
113名の参加者も熱心に耳を傾けていました。

発表企業と内容

企業	発表目的・内容
株式会社アーダン (奄美市)	・資金調達 ・国内最高水準のシルク高配合エイジングケア化粧品品の奄美発グローバル展開
安全産業株式会社 (鹿児島市)	・販路拡大事業提供先獲得 ・バイオオデューゼル燃料(BDE)を通じて循環型社会形成への取り組み

これまでの二水会での発表企業は、県内131社、県外47社の計178社となりました。

株式会社アーダン

代表取締役 西 博顯

奄美市名瀬和光町7番地8

TEL : 0997-54-2378

FAX : 0997-55-1211

E-mail : y-nishi@adansilk.co.jp

http://www.adan.co.jp



発表する西社長

発表内容

〈企業紹介〉

当社は、奄美大島で平成7年創業し、絹(シルク)を主原料とした化粧品、及び関連商品の製造及び販売を行う会社です。独自の技術により、高配合率で化粧品にシルクを使用し、界面活性剤、乳化剤を使用しない他とは一線を画した化粧品づくりを特徴としています。

〈商品開発のきっかけと現在の取り組み〉

大島紬で知られる奄美大島で、紬を紡ぐ女性達による「繭を洗うと手



初絹シリーズ (奄美産絹配合)

が美しくなる」との言い伝えをヒントに、絹の化粧品を発売しました。人体に安全で環境にやさしい商品作りを基本的なコンセプトとし、絹(シルク)を主原料とした化粧品の製造販売をしてきました。その製品は、シルクの持つ限りない可能性を最大限に引き出す製品となっています。絹は、長年手術の縫合糸として医療現場で使用され、その高い生体適合性が実証されており、絹の再生医療分野において東京農工大学と共同研究を行い、肌の再生を早め美容効果の期待できる遺伝子組み換え蚕(トランスジェニック蚕)の提供を受け、新商品の研究開発を行っています。

〈商品の紹介〉

1. 初絹シリーズ

創業以来からのシルク主原料の基礎化粧品シリーズです。シルクを主原料とする、天然の素材を使う、界面活性剤を使用しないという当社の

ポリシートの原点ともいえます。シルクがお肌を健やかな状態に導き、うるおい・つや・ハリを与えます。

2. 純絹シリーズ

シルクに黒砂糖の保湿力をプラスしたハイエンドシリーズです。奄美大島でも馴染み深い素材、黒砂糖を使用し、美容効果をさらに高めたシリーズとなります。

3. シルクファイブシリーズ

シルクにフィブロネクチンをプラスしたシリーズです。世界の女性にシルクで美しく健康になって欲しいと、研究を重ねて生まれた商品で、シルクと美容成分との相乗効果が期待できる製品として、現在全国エリアでテレビCMを放映中です。

発表後の成果・感想

準備を進める中で、弊社の現在の取り組みをより客観的に見直す良い機会となっただけでなく、発表後は、



純絹シリーズ (奄美産黒糖配合)



発表する山下総務課長

安全産業株式会社

代表取締役社長 矢野 健

鹿児島市南栄3丁目17-5

TEL : 099-269-3081

FAX : 099-269-3068

E-mail :

h_yamashita@anzen-group.co.jp

http://www.anzen-group.co.jp

今後の展望

多くの方々から貴重なご質問やご意見を頂くことができ、見直すべき課題も見えてくると思います。大きな励みにもなりました。また、新たな発表の場をご紹介戴いたり、養蚕を復活させる取り組みをされている自治体の方との意見交流などもでき非常に有意義な体験となりました。

これまで築き上げられてきた奄美大島の絹の伝統と歴史を土台に、絹の可能性を新しい形で開花させることができるようにさらなる企業努力を積み重ねていこうと思います。

発表内容

〈企業紹介〉

私も安全産業株式会社は運送業として昭和42年に設立し、現在、鹿児島市内に5拠点、鹿児島県外に福岡、熊本に営業所、大分、宮崎出張所、そして大阪に連絡所があります。また、トラックの保有台数は113台で、事業を展開しています。

H14年に品質ISO9001を、H21年に環境ISO14001を認証取得し、物流サービスの向上を図り、また社訓の目配り・気配り・思いやりの精神、またこちらの経営理念の下、全従業員が日々の業務を行っております。これらの基盤となる事業に加え、新たにバイオディーゼル燃料事業を平成21年からスタートしました。

〈事業開始のきっかけ〉

この新規事業にチャレンジしようと決意した当時は、省エネ法の改正



バイオディーゼル燃料

に伴い、特定事業者の範囲が広がり、荷主様の環境に対するニーズが高まりつつある中、当社でも品質ISO9001の取り組みの中で環境活動に関する品質目標を掲げ、物流サービスの他社との差別化を図っていました。

〈事業の目的・特徴〉

この新規事業のスタートにあたり、早速以下の3つの事に取り掛かりました。

1つ目は、農林水産省よりバイオ燃料地域利用モデル実証事業の認可を受けた事

2つ目に、ISOのPDCAのサイクルを導入・活用すべく環境ISO14001を取得しました。

そして3つ目に、地域一体となった事業にすべく、パートナーを得て、南九州リサイクル事業地域協議会を設立しました。

このバイオディーゼル燃料事業は、地域で排出された廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料を製造、そしてこの製造したバイオディーゼル燃料をディーゼル車輻に導入し、CO₂削減を行うという地域に密着した循環型社会の形成を目指した事業です。また、当社ではこのバイオディーゼルを導入したトラックを使用し、物流委託を受ける事で荷主様の環境活動に寄与しております。

発表後の成果・感想

今回の発表を受けて、様々な方々から貴重なアドバイス等を頂きました。この頂きましたアドバイスを今後の活動に活かしていきたいと考えています。本当にありがとうございました。

今後の展望

今後も廃食用油の確保、バイオディーゼル燃料の供給拡大、そして環境に寄与した物流サービスの提供を、更に推進していきたいと思えます。今後ともご指導・ご助言等頂きますようお願い申し上げます。



BDF 製造施設

海外情報

製造業アジア圏域海外販路開拓支援セミナー

鹿児島県の「かごしま製造業振興方針」に基づいて「アジアへの販路開拓支援」を実施するために平成24年9月12日（水）、鹿児島県東急インにおいて、（公財）交流協会、台北駐日経済文化代表処、県との共催による「製造業アジア圏域海外販路開拓支援セミナー」を開催しました。

基調講演2団体と事例発表2社の講演後は、海外支援個別相談コーナーも設けられ、海外への販路拡大を図ろうとする県内製造業などから、55名の参加がありました。

■ 基調講演 ■

「台日産業連携の現状と事例、日台産業連携架け橋プロジェクトについて」

台北駐日経済文化代表処副代表

余 吉政 氏

【台日投資貿易概略】

台湾への投資件数は、日本は国別で第1位、投資金額については、第4位となっている。

主な業種としては、電機、金属、

化学など製造業が中心であったが、近年は半導体、液晶、太陽電池などハイテク関連及び金融、保険、小売などのサービス業が主流となっている。

【中国との経済交流】

現在では台湾から中国への直行便は、空路で37空港（週558便）、海路で68港湾と結ばれ、中国の地方空港や港湾とのハブ化が進んでいる。

【ECFAについて】（将来の中台経済関係を規定するための基本協議）

2010年に台湾と中国の経済交流について、関税引き下げ、相互投資の緩和と保護、知財の相互保護と審査基準統一等も含めた経済協力に関する取り決めとして「ECFA」の基本協議がなされた。

台湾からも中国に相当数の企業が輸出しており、中国への輸出企業のトップ10の内6社が台湾系であり、相互協力による台湾企業の活躍が顕著である。

日本企業においても、台湾への進出や投資により、台湾企業と連携す

ることにより、より容易な中国市場への参入が可能になると思われる。



台北駐日経済文化代表処副代表
余 吉政 氏

「2012年台湾機械産業の発展状況と日台企業連携による中国市場戦略」

台湾区機器工業同業公会駐日代表

崔 海川 氏

【台湾の機械工業】

台湾の機械産業は1980年から2010年の30年間に16倍の成長率となり、約17500社、全製造業シェアの19%を占めている。

台湾の機械業種においては、世界

生産高で精密金型や、工作機械は第6位、紡績、ゴム機械は第5位、また、家庭用マシンについては輸出額第1位となっている。

台湾から機械の国別輸出実績推移については、中国が約33.9%、アメリカが14.2%、日本5.7%となっている。（2011年実績）

また、国別輸入実績については、日本36.3%、アメリカ18.1%、中国8.6%となっている。

台湾で生産される工作機械、プラスチック機械などの生産高、輸出額も年々増加しており、主要輸出国は、中国で3割以上を占めている。また、輸入については、日本からが大半を占めている。

【台湾機械業による中国への投資】

中国への投資としては、豊かで安価な労働力、共通な文化・言語、安価な土地や工場、古い機械の再活用が主な投資理由となっている。

台湾から中国への投資金額についても、年々増加している。

日台機械業のモノ作り技術を連携し、日台の企業で中国に工場を設置

したり、技術移転方式で機械を中国企業に生産委託したり、中日合資方式で中国に投資生産したりといった、日台共同で中国への投資や進出するケースが見受けられる。



台湾区機器工業同業公会駐日代表
崔 海川 氏

■県内先行企業の海外への 販路開拓の実例発表■

① 「薩摩の食文化を世界へ」

日本有機株式会社

代表取締役社長 野口 愛子 氏

合鴨農法による薩摩鴨のブランド化、鴨の雛出荷から鴨を使った農作物の生産や鴨肉を使ったなべセットなど商品化の流れの説明の後、海外事業の展開のきっかけや台湾での展示会出展、現地の大学関係者等との現地指導や技術協力など、海外での販路開拓としての事例が発表された。



日本有機株式会社
代表取締役社長 野口 愛子 氏

② 「海外販売事例」

株式会社ヨシカワ

代表取締役社長 吉川 修 氏

海外展開のきっかけや1955年に初めて展示会に出展した際の会社の取り組みや当時の商談の事例の発表がなされた。

アメリカやヨーロッパ、世界のそれぞれの国における製品の利用方法の違いや技術提携や販売形態、取引先国におけるビジネスモデルの紹介がなされた。

取引先との契約までには、社長自ら直接取引先に何度も足を運んで、その会社の状況を見て信頼関係を深めて契約を行っている。契約については、トップとトップの意思疎通が必要で、お互いの考え方や販売に対する姿勢、会社の協力体制など合意したうえで取引することにより、より深い信頼関係が得られ、継続的な



個別相談会の様子

■個別相談コーナー■



株式会社ヨシカワ
代表取締役社長 吉川 修 氏

取引が可能となるとの発表があった。

海外展開支援事業

海外事業展開のための相談・専門家派遣の案内

海外展開を検討中の県内中小企業を対象に、専門のコーディネーターによる相談（月1回）、外部の専門家派遣事業（1社3回程度：3社）を無料で実施（募集）しています。
詳しくは新産業育成課（畠中・下津貫）電話 099(219)1272 まで

地域中小企業外国出願支援事業の助成決定

県内中小企業による海外への戦略的な外国特許出願等に対してその費用の一部を助成

区分	企業名	特許出願等の名称	金額（千円）
特許	株式会社福元技研	皮膚美容用混練組成物およびその製造方法、使用方法	610
	株式会社エルム	高安定調光装置	1,000
	株式会社J S V	鉛蓄電池の電気処理による蓄電能力劣化防止と再生装置	1,000
商標	株式会社ロスフィー	Fractal shade	84

I T 情報コーナー



今さらですが・・・

『スマホ（スマートフォン）』についての再考

今さらですが：

スマートフォン（略してスマホ）ブームが続いています。

九月二一日に発売されたiPhone（アイフォン）5は販売開始三日間で5百万台を売上げ、アップル社の時価総額はトヨタの約5倍（九月十九日時点）に達し、世界一の上場企業となっています。

今回は、経営者の方々の視点に立つて、「スマホとは？」について、ITがごしま支援隊がお届けします。

【スマホはパソコン】

スマホとは何でしょうか。それは、電話機が付いた、携帯用のパソコンです。



スマホ＝パソコン＋携帯電話

また、安価で豊富なアプリ（ソフト）を追加することでパソコン以上の機能を拡張できるのが大きな特徴です。

従来の携帯電話にパソコン機能が付いたと解釈するとその本質を見誤ります。

【画面の大きさは】

パソコン画面の大きさは最近のデスクトップでは17インチ、ノートパソコンでは14インチが一般的でしょうか。それに対してスマートフォンでは、3.5インチから5インチが一般的です。因みにタブレット型は7インチから9インチです。



4インチ < 9インチ < 14インチ < 17インチ

この違いは視認性が弱くなっているシニア世代にとっては大きな違いになります。またシニア世代でなくともパソコンの画面をそのままスマートフォンで見るとは非常にストレスになります。

そのために、スマートフォンの画面サイズに最適化されたソフトウェア（スマートフォンではアプリと呼

んでいます）を使って画面を見ることがになります。この画面の見易さ、操作のし易さが使い易さに影響します。

【百聞は一見に如かず】

スマートフォンは指で操作します。これまでのパソコンでマウスと悪戦苦闘された方も多いかと思いますが。

指の威力は偉大です。でも、その感覚は体験して見ないとわかりません。最初は触れただけでも画面が変わることにビックリされることでしょう。しかし、一旦慣れてしまふとその快適さに二度とマウスを触りたくなくなるほどです。



ただし、指先でできることには限界もあります。

【忙しい経営者に最適】

スマートフォンではどのようなことができるでしょうか。

パソコンでできることは大半がスマートフォンでできます。今まで出

張や娯楽のために持ち歩いていた電子機器が、スマートフォン一台で兼用することができるようになります。九州新幹線内でも、いつでもネット接続や充電ができるようになります。

◇ 日常に役立つ機能

- ・カレンダー ・ 備忘録
- ・ メール ・ 名刺管理 ・ 辞書
- ・ 書類管理 ・ 検索 ・ プレゼン
- ・ ニュース閲覧 ・ 天気予報
- ・ ツイッター ・ フェイスブック

◇ 出張に役立つ機能

- ・ 乗換案内 ・ 地図 ・ 宿泊予約
- ・ ボイスレコーダー ・ アラーム
- ・ 翻訳（音声、単語、文章）

◇ 趣味等に役立つ機能

- ・ 音楽プレーヤー ・ ゲーム機
- ・ ビデオプレーヤー ・ 株取引
- ・ 語学学習 ・ 書籍 ・ カメラ

【スマホの選び方】

スマートフォンは表1のように分類できます。（一部抜粋しています）
その他に機能の違いとして、お財布携帯、ワンセグテレビの有無や操作性、アプリの種類等があります。
ご自身の環境や利用目的に合わせてお選びください。

【スマホのリスク】

スマートフォンはパソコンです。

表 1

基本ソフト（OS）※1	OSメーカー	通信・販売会社	製造メーカー	機種
Android（アンドロイド）	Google（グーグル）	ドコモ au ソフトバンク	サムスン 富士通東芝 ソニーモバイル他	GALAXY ARROWS Xperia 他
iOS（アイオーエス）	Apple（アップル）	ソフトバンク au	アップル	iPhone

※1 その他に、ウィンドウズフォン、ブラックベリー等があります。

パソコンのリスクはそのままスマートフォンでもリスクになります。

◇ ウィルス

情報漏洩を引き起こす悪質なウィルスについては、対策ソフトをインストールしておく必要があります。

◇ 紛失

常時携帯するスマートフォンは機器を紛失したり、故障する確率が高

くなります。その際の対策を行っておく必要があります。

◇ 依存症

便利すぎるが故に利用の仕方によっては、身体や精神に悪い影響が指摘されています。各自の生活に合わせた利用が大切です。

【経営に活かす】

今までのパソコンソフトは、限られた選択肢の中から与えられた受身の使い方でした。
スマートフォンでは、使う立場から豊富なアプリケーションを、利用目的と自分の好みに合わせて、能動的に選択できます。



<http://www.atmarkit.co.jp/fnetwork/rensai/5mincloud/01.html>

※2 クラウドとは、インターネットをベースとしたコンピュータの利用形態。

スマートフォンは※2クラウドの端末としても利用できます。企業内の情報やシステムを遠隔地から操作することも可能です。
場所にも時間にも拘束されないグローバルな使い方ができます。ITをもっと身近にして、経営に活かしませんか。

◆ セミナー開催案内

○ 「ソーシャルメディアを活かした販売戦略！」

日時：11月15日（木）13時半～

場所：鹿屋市 リナシティかのや

情報研修室

○ 「フェイスブック等を活かした

WEB戦略」

日時：12月5日（水）14時～

場所：奄美市名瀬

奄美観光ホテル

問合せ先

・ かごしま産業支援センター

TEL 099-219-1275



の もと ゆき ちか
野 元 幸 浮

プロフィール

資格：ITコーディネータ

所属：NPO法人 ITかごしま支援隊

URL：<http://www.itshien.org>

TEL：080-3443-0812

E-mail：itksall@itshien.org

Information

県外展示会への出展支援しました (円高等対応緊急販路開拓支援事業)

鹿屋市と共同での小間づくりにより「第15回機械要素技術展(関西)」に出展いたしました。当展示会は機械要素や加工技術を一堂に会した専門的な展示会として評価されており、来場者も設計・開発・製造・生産技術部門の製造業ユーザーが中心で、具体的な商談が活発に行われました。



開催日：平成24年10月3日(水)～10月5日(金)

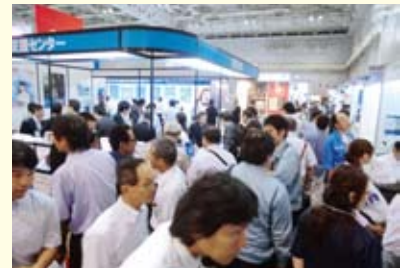
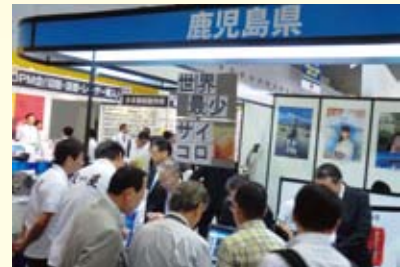
場所：インテックス大阪
(大阪市住之江区南港北1-5-102)

来場者：30,673人

展示企業：鹿児島県・かごしま産業支援センター(12社)
鹿屋市(2社)

★かごしま産業支援センター展示企業

	企業名	展示内容	住 所
1	鹿児島ケース(株)	精密板金製品	日置市吹上町
2	キリシマ精工(株)	精密微細加工品	霧島市国分川原
3	(株)キンコー	金型・治工具	薩摩川内市小倉町
4	(株)サンライズ精工	精密微細加工品	霧島市隼人町
5	(株)ステップ	プラスチック加工品	薩摩川内市中郷町
6	(株)東郷	簡易面取り機・金型	鹿児島市川田町
7	(株)中川製作所	精密機械加工品	薩摩川内市樋脇町
8	(株)南光	セラミック部品	鹿児島市七ツ島
9	(株)秦野精密	ファインブランク加工品	薩摩郡さつま町
10	(株)藤田ワークス	精密板金加工品	霧島市国分上野原
11	(有)ヤナセ精機	精密加工部品	出水市平和町
12	吉玉精鍛(株)	めっきサンプル	薩摩郡さつま町



★鹿屋市展示企業

1	飯田機械(株)	医療用針、深絞り等	鹿屋市串良町
2	(株)サツマ超硬精密	金型部品・治工具	肝属郡吾平町

受発注情報

当センターでは、仕事を発注・受注したい企業の希望条件(設備・技術力等)に見合った取引の紹介あっせんを行っております。あっせんのご希望がありましたらご連絡ください。

◆発注情報

なお、お手元に届くまでにあっせん済みになっている場合もありますので、その際はご了承をお願いいたします。

No.	所在地	発注品目	数 量	加工内容	発注条件	
					必要設備	材 料
1	大分県	各種包装機械部品、自動組立機部品	協議	旋盤、フライス、複合、精密板金	同左加工に必要な設備	鉄, SUS, アルミ
2	佐賀県	シャフト、フレーム等	協議	旋盤、製缶、レーザー、マシニングセンター、NC	同左加工に必要な設備	SS, SUS, AL, 樹脂
3	南さつま市	アルミダイキャスト、アルミ押出し、樹脂成形	協議	アルミダイキャスト、アルミ押出し、樹脂成形	同左加工に必要な設備	ADC12, A6093, PA66, PC, POM, ABS

【お問い合わせ先】 取引振興課 TEL: 099-219-1274 FAX: 099-219-1279
E-MAIL: business@kric.or.jp

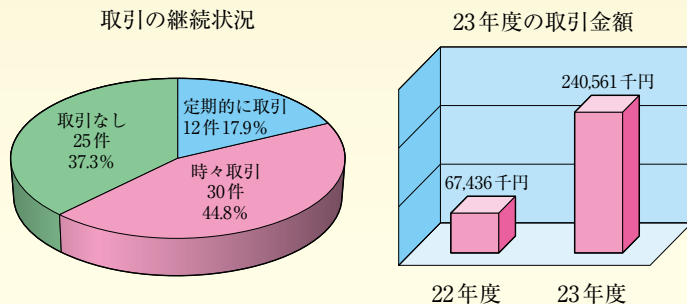
Information

平成 22 年度取引成立案件フォロー調査結果

当センターでは、平成 22 年度に、270 件の取引の「紹介・あっせん」を行い、70 件、金額で 6782 万円の契約が成立しました。取引あっせんの波及的効果を測定するため、今年度、当該契約の初回以降における平成 23 年度の取引状況をフォロー調査しました。

◎調査対象 70 件の取引成立件数のうち、県内企業から県外企業へ発注した 2 件及び倒産企業 1 件を除く、67 件（成立当初金額 67,436 千円）

◎調査結果



- 調査対象の 67 件のうち、62.7%にあたる 42 件は「定期的」あるいは「不定期」に取引を継続しています。
- また、取引金額は当初取引金額の約 3.6 倍にあたる 240,561 千円となっていることから、かごしま産業支援センターの「取引あっせん事業」は、県内中小企業の新規取引先の開拓及び受注拡大、経営の安定に貢献していると考えられます。

第 1 回鹿児島大学ラボツアーを開催しました

9 月 7 日（金）に鹿児島大学郡元キャンパスで開催。

今回は、機械工学関連のテーマに絞って募集したところ 23 の企業および団体から 60 名の参加がありました。

氏 名	テ ー マ
近藤 英二 教授	機械加工における振動の低減と加工精度・加工能率の向上
木下 英二 教授	ディーゼル燃料としての動・植物油およびバイオアルコールの利用
足立 吉隆 教授	3D4D マテリアルサイエンスー鉄鋼・金属ゲノムの解明
上谷 俊平 准教授	塑性加工における表面テクスチャと潤滑材の有効活用
林 良太 准教授	可撓性シャフトを用いた探索用小型ロボットの開発



アロン電機(株)がサポインに採択

さつま町で金型治工具及び自動機の製作で知られるアロン電機(株)が、経済産業省の公募型事業である平成 24 年度戦略的基盤技術高度化事業（通称：サポイン事業）に平成 24 年 7 月 27 日付で採択されました。

産学官連携課では、公募に当たって申請書記入の内容表現、図表の見易さなどのお手伝いや九州経済産業局、(独)中小企業振興機構九州支部と一緒にプレゼン会の開催、提案に当たっての全体構成である研究協力者（大学）、アドバイザー（公設試）の紹介等を(株)鹿児島大学 TLO と協力して行いました。

計 画 名	委 託 額	計画期間
高精度形状追従技術を用いた 多品種対応型切削工具検査装置の開発	初年度 4,500 万円	2 年間
	2 年度 3,000 万円	

Information

上野原ビジネスプラザに「ものづくり維新館」がオープンしました

「ものづくり維新館」は、県とかごしまモノづくり推進協議会が開催している経営革新道場の改善活動強化と、モノづくり従事者や子供たちが自動車の歴史やトヨタ生産方式の具体事例を学べる場として開設されたものです。

館内には、実際の企業の改善事例のほか、内部がわかるように半分に切ったレクサス車両やコムス等の展示もあり、今後、地域産業の活性化だけではなく、小中学生などにモノづくりの大切さを学ぶ場としても活用されることが期待されます。

※ 「ものづくり維新館」は一般見学も可能ですが、その場合は事前予約が必要です。

御予約は、(株)トヨタ車体研究所経営企画部事業推進室 TEL: 0995-48-2809 まで



ホームページをリニューアルしました！

<http://www.kric.or.jp>



スマホにも対応！

さらに便利に、

使いやすくなりました！

チェックポイント

トップページの上部にニーズ別相談カテゴリーを準備しました。「創業したい・新事業を始めたい」「新製品等の販路を開拓したい」「専門家からのアドバイスを受けたい」など中小企業の皆さまの今必要な支援に素早く検索・対応できるようになっております。

皆様の声をお聞かせください！

本誌「KISC」の誌面について、読者の皆様の声をお聞かせください。

「〇〇が面白かった、ためになった」、「△△をもう少し□□にしたらどうか」、「〇〇のテーマについて紹介して欲しい」、などなど・・・

本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

こちらまで⇒総務情報課

TEL: 099-219-1275

FAX: 099-219-1279

e-mail: info@kric.or.jp

なお、本誌の内容は、ホームページ <http://www.kric.or.jp> でも紹介しています。

情報 KISC AUTUMN

発行者：公益財団法人かごしま産業支援センター

〒892-0821 鹿児島市名山町 9-1 鹿児島県産業会館 2 F

TEL 099-219-1270 (代表)

FAX 099-219-1279

E-mail kisc@kric.or.jp

URL <http://www.kric.or.jp>